

【発表概要】

2024年 国際アルツハイマー・パーキンソン病学会 (AD/PD™ 2024 International Conference on Alzheimer's and Parkinson's Diseases)

全自動免疫測定法と免疫沈降質量分析法で定量された血漿 tau と p-tau181 の相関性評価

発表者	石木 健吾 ¹ , 鎌倉 健雄 ² , 村上 駿 ¹ , 松本 和也 ¹ , 山下 和人 ¹ , Gupta Ishita ¹ , 三浦 雅央 ¹ , 集田 和好 ² , 堀江 勘太 ² , 佐藤 利幸 ¹ ¹ シスメックス株式会社 中央研究所 ² エーザイ株式会社 DHBL DCV ファンクション モレキュラープロファイリング部
発表概要	背景 血液バイオマーカーを活用したアルツハイマー病診断の有用性は広く認識されており、臨床現場への社会実装が期待されている。しかし、これらバイオマーカーの血中濃度は低いため、他の血液成分により影響を受ける可能性がある。そのため、これらバイオマーカーを正確に測定可能なシステムが必要である。我々はこれまでに、全自動免疫測定装置 HISCL™-5000 を利用し、血液中のリン酸化タウ 181 (p-tau181) と総タウ (t-tau) を測定可能な試薬を開発してきた。本研究では、HISCL による血液バイオマーカー測定の正確性を確認するために、血液中の標的物質を正確に定量可能な免疫沈降-質量分析法 (IP-MS) による血漿 p-tau181 と t-tau アッセイを開発し、HISCL と IP-MS 法の 2 つの手法で測定した血漿 p-tau181 と t-tau 濃度の相関を評価した。 方法 市販血漿検体 40 症例について、HISCL と IP-MS 法の両方で血漿 p-tau181 と t-tau を測定した。これらの方法で測定した血漿 p-tau181 と t-tau 値の相関は、スピアマンの順位相関係数 (rs) を用いて評価した。 結果 HISCL と IP-MS 法で測定した血漿 p-tau181 と t-tau の濃度には、統計学的に有意な

	<p>相関が見られた。血漿 p-tau181 と t-tau の rs 値はそれぞれ 0.86 ($p < 0.001$) および 0.84 ($p < 0.001$) であった。</p> <p>結論</p> <p>HISCL と IP-MS 法で測定した血漿 p-tau181 と t-tau の濃度間に有意な相関があることを確認した。本結果は、これらのバイオマーカーを HISCL によって正確に測定できていることを示している。全自動での正確な測定を実現することで、実臨床における血液バイオマーカーの活用が加速されると期待される。</p>
セッション	On-Demand Oral VIRTUAL ORAL: THEME A (VO045 / #2859)